【ねがいましては】

平成２２年２月２５日　　*KYOWA SCHOOL*
第２３２号

「前向き」

幼少期から、間違える練習、負ける練習を繰り返し体験していただく。つまり、何事にも合うより間違えるほうが多いのだという感覚を身につけてもらう。

積み木遊びをしていて、崩れる、また崩れる。ようし今度こそもっと高く積んでやるといって躍起になっている子もいれば、崩れ方を楽しんでいる子もいる。私は後者の子にとても興味をひかれます。勝ち負けにこだわらない心理を手に入れています。その子はその遊びから、物が落ちることを言葉ではなく体感で手に入れていきます。落ちるという物理的なものの基本を身につけます。軽いと落ち方が遅いなー、重いと落ち方が速いなー・・・。大きさはどうなのだろう・・・？

勝ち負けにこだわりすぎますと、負けた時点でやめてしまうことが多くなります。これは人の自然な心理であり、大人でも然り・・・。今の子どもたちにとっての勝ち負けは、『合う・合わない』です。合えばいい、これだけがすべてになっている子は多いはずです。テスト・成績偏重がもたらした結果と言えます。

学ぶ世界には、勝ち負けなどいらないのではと思います。学んだ瞬間、ニコッと笑顔がこぼれる。そんな光景が子どもたちにはぴったりです。

子どもたちにふさわしい状態とは、体であれば、常に成長しようとしています。日々の積み重ねが、大人へと体を成長させます。

勢いよく食べる姿は、まさに子どもらしさです。『心身ともに』と、よく言われますが、身はそうであっても心はどうも・・・。それが今の教育環境のように感じます。心が育つということは、常に心が前向きであること、もりもり心が前を向いていれば、体と同じように、心も大人へと成長するでしょう。かなり単純な考え方かもしれませんが、哲学的に言って、人が肉体と精神により構成されているとするならば、かなり理に合っていると思います。

では現代を生きる子どもたちの中で、勉強（学ぶこと）に前向きな子の割合はどれくらいいるのでしょうか。過半数を超えているのでしょうか・・・？　残念ですが、私が見る限り過半数以下は確実です。前向きであれば宿題なども勢い良く取り組むでしょう。予習や復習なども率先して行うでしょう。が、しかし現実は・・・。

言われたからやる、言われそうだからやる。叱られたからやる、叱られそうだからやる。負けたからやる、負けそうだからやる・・・・。真の学びは学校社会から葬られてしまったように感じてしまいます。

真の学びを手に入れた学校像とは・・・。

誰もが気持に勢いがある。次は何だろう、今度はどんなことが隠れているのだろうと、探究心にあふれている。失敗しても、その失敗を受け止めて、次へ生かせるようさらに集中力が高まる。まるで失敗を楽しむかのように･･･。教師が率先して一緒に学ぶことの重要性を訴える。わからなくて困っている子や、できなくて困っている子の隣に寄り添って、いっしょに学ぶことの楽しさを伝える。その様を見ている子たちは、助け合うことの重要性を肌で感じ始める。

『できる・できない』が重要なことではなく、いかに心を前向きにしていることが大切なことかを常々訴える。体が大きくなることは、大きくなろうとする前向きなものが働いている。心が成長することも同じであると・・・。

子どもたちは好奇心のかたまりです。いや、人みな同様です。興味を持った物にはとてつもない集中を見せます。言葉に興味を持った子は、次から次へと言葉を手に入れてゆくでしょう。数に興味を持った子は、数の持つ魔力にのめりこむでしょう。シートンやファーブルなどはその域に達した方々でしょう。

『勝った・負けた』とか、『上がった・下がった』とかいうものには程遠い世界です。

でもなぜか気がつくと、いつのまにか『成績』・・・。

この今の制度を覆すことはかなり難しいと言わざるをえません。今、親業をなさっている方々ご自身も、今の制度のなかで過ごしてきただけに（私もそのひとり）、違和感を覚えたとしても仕方のないことだとして済ませてしまいがちです。６年我慢すれば･･･。３年我慢すれば･･･。そしてまた３年。そして４年･･･。そして社会へ･･･。その間に前向きな心はそぎ落とされ、見る姿もない状態に・・・。

会社でも我慢すれば・・・『指示待ち症候群完成』

お勤めなさっているお母様方が、口をそろえて言われること「今の子たちは、言われたことはきちっとするけど・・・。」

確かに今の教育環境の中では、言われたことをきちっとやっていれば、かなりの『成績』がとれるでしょう。しかし、テストでも、入試でも、終わってしまえばそこから先へは歩こうとしない子どもたちが多い中、自身目標を見つけ、評価などというものに目もくれず、黙々と歩こうとする子が、そのような子が会社にいたとすれば、先ほどのような『愚痴』は出ては来ないのではないでしょうか。

さあみんな、テストなし、評価なし、とにかく勉強を学びを楽しもう！